

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成22年～平成26年）

「国際日本学の方法に基づく〈日本意識〉の再検討—〈日本意識〉の過去・現在・未来」  
研究アプローチ①「〈日本意識〉の変遷—古代から近世へ」

2014年度 第3回研究会

# 「女らしさ」と 国文学研究

衣笠 正晃

(法政大学国際文化学部 教授)

明治期において近代国民国家の装置としての「国文学」が成立するにあたり、平安文学を代表とする和文学と女性との結びつきから生じるアンビヴァレンスが、国文学者にとって大きな問題となった。しかし大正中期以降、女流文学ジャンルの確立にもなって平安女流文学がカノン化される一方で、国文学は拡大する女子教育のなかで女性にふさわしい（代替的な）教養としてあらためて位置づけられることになる。本発表ではそうした過程を学校教育（高等女学校、女子専門学校など）のカリキュラム、投稿雑誌などを材料としてたどり、考察したい。

日時：2014年 **10**月**24**日(金) **18:30**～**20:30**

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス 58年館2階

**国際日本学研究所セミナー室**

司会：小林ふみ子（法政大学国際日本学研究所所員、文学部教授）

参加申込：以下の申込専用フォームからお申込みください。

<https://www.event-u.jp/fm/10417.html>

※ 参加費無料 どなたでもご参加いただけます



法政大学国際日本学研究所

TEL: 03-3264-9682 FAX: 03-3264-9884

<http://hijas.hosei.ac.jp>

